

子どもたちが見た戦争

— 学童疎開先からの手紙

学童疎開から70年目という節目の年であった平成26年(2014)、東京都公文書館は学童疎開経験者であった香川郁世氏から貴重な資料の寄贈を受けました。赤松国民学校の集団疎開先であった静岡県島田町の敬信寺から家族にあてた手紙や絵、絵葉書等の資料です。

太平洋戦争末期の昭和19年(1944)6月、戦局の悪化する中で政府は「学童疎開促進要綱」を閣議決定し、縁故疎開を勧奨しつつ、縁故のない学童は集団疎開させていきました。

実際に疎開先から家族にあてて差し出した手紙には、母親に対し、食べ物や「ないしょ」で送ってくれるように依頼する紙片や、B29による空襲について書き綴った手紙など、疎開先での生活を象徴的に示し、また戦時下の様子をよく伝える情報が書き込まれていました。



寄贈された資料(一部)



B29の来襲を伝える手紙